あけましておめでとうございます

小林哲夫

昨年の賀状にこうした駄文を連ねることはそろそろやめようと書いた。

しかし１年に一度は、まだ自分が元気であることを伝えたい人がいる。今年もまた何人かの人から賀状をいただく。そのためにも年賀の「挨拶」はしておきたい。

けっきょくは、いまの心境・近況を述べ、この１年を振り返る賀状になる。

31年目の正月を迎えた。もちろん私の歳ではなく、エディットを創って丸30年が過ぎたという意味だ。100年以上続く会社はざらにある。数年で大企業に成長する組織も少なくない。

しかし自分の会社がいま従業員85人、東京・大阪・名古屋に拠点を持つとは夢にも思わなかった。

忍耐・辛抱・我慢／気配り・目配り・心配り／思いつく・思いやる・思い切る／ピンチはチャンス／艱難汝を玉にす／編集力は人間力など、いろいろ標語を探し、自分に言い聞かせ、肝に銘じ、エネルギーにしてきた。

「新規開拓より受け皿づくり！」もその１つ。常に危機感を持って、社員・スタッフのレベルアップを目指してきた。

しかしやはり「縁」と「運」が味方してくれたからだとつくづく思う。

新型コロナウイルス禍にあっても、業種的に被害は少なく、たくさんの仕事に恵まれた。

昨年のいちばんの成果は大阪オフィスの充実。事務所を１フロア追加して、社員・スタッフも10人になった。

エディットもAJEC（日本編集制作協会）も、私の最大のミッションは「バトンタッチ」。優秀な編集者・リーダーを一人でも多く育てたい。それは私の夢でもある。

しかし、時代はとても暗い。コロナだけではない閉塞感が漂っている。

「嘘」と「忖度」、「長いものには巻かれろ」式の世の中にあって、「逃げ」も「無視」も「我慢」もせず、したたかに生きる力を身につけるにはどうしたら良いか。まだ答えは見つからない。

「人生と旅は軽やかに！」と沢木耕太郎は教えてくれた。しかし、この歳になっても、なかなかそうはいかない。せめて心の中だけは「軽やかに」して生きていきたいと思う。

コロナに鈍感な私でも、昨年はいままでの毎週後半の東京行きは完全にストップ。AJECも半年以上、休眠。コロナでいちばん影響を受けたのは、じつは私だった。

しかし自粛は苦手。けっきょく今年は焦るようにたくさんの旅をした。海外の旅は２月のミャンマー、あとはすべて国内旅行。有馬・神戸・若狭・西浦・渥美・別府・函館・宮古島・紀伊半島一周・白浜・伊勢志摩・伊豆高原・修善寺等々。

別府・函館・宮古島を除いて、すべてクルマの旅。外へ出れば出るほど、知らない街や風景、歴史や文化に出合う。じつに楽しい。気分転換に最高。

しかしコロナは生の旅への自粛を迫る。

せめてテレビの旅番組や旅行雑誌を眺めるしかない。2021年の「旅」は、万歩計を腰につけた名古屋城周辺の一人歩きだけに終わりたくない。

修善寺の　もみじの浮かぶ　露天風呂

エディット名古屋本社――いまも60人の社員・スタッフが机を並べる。

エディット大阪オフィス――いまのところエディットでいちばんゆったり。

宮古島の旅――珊瑚でできた島、日本でいちばん長い無料の大橋。

ミャンマーの旅――施しの仏教国、「ビルマの竪琴」を思い出す。

企画・執筆・編集・制作
株式会社エディット
代表取締役　小林哲夫
http://www.edit-jp.com/

名古屋本社　〒451-0046 名古屋市西区牛島町5-2 名駅TKビル6F
TEL:052-586-0631(代)　FAX:052-586-0632

東京オフィス　〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン727号
TEL:03-5225-0981(代)　FAX:03-3266-5072

大阪オフィス　〒541-0041 大阪市中央区北浜3-5-19 淀屋橋ホワイトビル612号
TEL:06-6208-0501(代)　FAX:06-6208-0502

（過去の賀状は：http://www.edit-jp.net/room/nenga.htmlにあります）